

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

平成29年度第1回大分県立図書館協議会

2 開催日時

平成29年8月31日（木） 14時から15時35分まで

3 開催場所

大分県立図書館 特別会議室

4 出席者（10名中6名出席）

（1）委員

安東委員、岸田委員、今井委員、富高委員、佐藤委員、山田委員

（2）事務局

塩川館長、藤本副館長、佐藤副館長兼サービス課長、佐藤総務企画課長、
森山学校・地域支援課長、千葉総務企画課主幹 ほか

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

なし

7 議題及び結果

（1）議題

（議事）

ア 平成28年度第3回協議会 意見等、当日説明・対応方針について

イ 平成28年度事業実績について

ウ 大分県立図書館重点目標の達成状況について

エ 意見交換

（2）結果

（議事）

ア 事務局から報告 原案どおり了承された。

イ 事務局から報告 原案どおり了承された。

ウ 事務局から報告 原案どおり了承された。

エ 意見交換 本日いただいたご意見等を踏まえて、今後とも図書館運営の充実に努めてまいります。

8 主な審議内容及び会議録の概要

（議事）

（1）平成28年度第3回協議会 意見等、当日説明・対応方針について

- 子ども読書支援員に関する資料によると、研修希望テーマに偏りがあるため、一部の推進員負担がかかっているとのことであるが、今後どのように対応するのか、また、29年度の前半の申請はどの程度出されているのか。

（図書館） 研修テーマとしてブックトークに関するところがあるが、これについての先生が若干少ない。どうしても同じ方をお願いすることが起こる。推薦をいただいている方に当たっているところである。また、今年度の状況については、8月末時点で14件、昨年度は一年間で13件であったので、予算措置の効果が出ているのではないかと思う。

- 資料1ページの一番下の意見等の欄「義務教育修了時点で、3分の1にあたる子どもたちがいわゆる引きこもりになってしまい」とあるが、県内一学年が1万人いる。その3分の1となると3,300人、そういうことはあり得ないので、3%の誤りではないか。インターネットで調べてみると、2.3%というように出てくる。3%ということであれば話が通じると思う。記録として残すのであれば確認した方がよい。
(図書館) 確認する。

(2) 平成28年度事業実績について

- 資料9ページのOLIBについて、実際、使っているが非常に便利だし読みたい本がその場で手に入っていてありがたい。その活用実績について、利用冊数など一昨年度に比べて順調に増えているのか。
(図書館) 登録団体も毎年伸びており、特にここ数年、学校の登録が増えているのに伴い、県立学校、小中学校からの利用が特に増えている。

(3) 大分県立図書館の重点目標の達成状況について

- (図書館) 資料の補足をさせていただく。目標を設定して達成状況を数字で示すというのは行政の通常のやり方だが、大事なのは評価である。残念ながら今のところ評価機関がない。幸い、図書館には協議会があるので、この協議会で評価してもらおう機関として機能していただければどうかと考えているので、そのあたりを議論していただければと思う。
- 外部機関に委託するようなものではない？
(図書館) 基本的には外部委員も入れての評価というのが通常のやり方。図書館協議会も非常に総合的な機能を担っていただいている組織であるので、職員が行う評価というものもあるが、協議会の委員の皆さんに、客観的に評価いただくような仕組み作りを考えてみたい。
- 美術館や博物館などに協議会のようなものがあるが、外部から同じ分野のプロとしての対等な目線で見れる委員が入っているような気がする。この協議会がそのままその評価も含めたところまでいっぺんに移行できるのかどうか、単純な疑問点としてお聞きしたい。
(図書館) 他の図書館との比較が必要かという観点になってくると思う。国立国会図書館は非常に規模が大きく参考にならないし、各県立図書館を見てもほぼ似通った仕事をどこも行っている。むしろ、県内でいろんな立場にある方から、評価をいただくのがよいのではないか。協議会の委員は教育委員会が責任をもって任命しており、図書館のことをよく見てくださる委員に評価していただくのがいいのではないかと考えている。
- 特に新たに外部委員を入れずにということか。
(図書館) 今日はこちらが考えていることを説明させていただいたが、正式には、また、協議会にご説明とご了解をいただくという形で提案させていただきたい。
- 専門的に図書がどうかと身につけていない者が、最終評価というようなものを出していいのかと思う一方、そういう仕事もしてくださいということであれば、委員としてもっとつぶさに資料にも出てきている文言や現状を自分の目で確かめておく必要があるのだろうと感じている。最終評価をするということになれば、責任を持って考えないといけないことだと思う。
- 達成状況を見るとときに、来館者数が増えており、100%以上の達成率となっていることはとても大きく評価できる場所であると思っている。

- 学校図書館をこれからもっともっと充実させていくことが、将来の人材育成ということになっていくのではないかと、子どもたちにとって非常にプラスになるのではないかと。図書館の方で、各自治体にどのように学校図書館を作り上げていこうと考えているのか聞きたい。

(図書館) 県立図書館は公立館、学校図書館の中央館的機能は基本的には持っていない。ただ、社会教育の機能を持ったことにより、社会教育という観点から市町村の教育、特に今年度の社会教育法の改正で地域学校協働活動ということが項目として盛り込まれて、社会教育の担当機関が地域の学校現場にどの程度関わっていいのか、一つのステップとして学校図書館にどう我々が関わっていくのかということ、大きな課題として投げかけられた。学校図書館との向き合い方について、今の情報交換レベルからさらに一歩進む必要があるのではないかと、大きな課題として投げかけられていると認識している。

- 評価者と言われると責任があり少し臆する部分もあるが、委員が幅広い分野から選出されていることを考えれば、やむを得ないのかなとも感じた。ただ、県立の図書館なので、委員について、委員のいない地域も少し気になり、もう少し地域性というところも考えていただいた方がいいのではないかと。委員に任命されれば、もう少し足繁く図書館に通い、評価できるようにしていかなければならないと感じた。

(図書館) 当然、県立の図書館なので、委員の人選について大分市に偏ったりするのはどうかという目配りはしないといけない。評価については、定まった手法があり、原案を事務局の方からお示しをして、ご意見をいただく形で評価案を策定していくという手続になると思う。通常の評価の手法に沿った形でやっていきたい。

- 具体的に時期はいつ頃になるか。

(図書館) 次回の協議会のときに提案させていただきたいと思う。

(4) 意見交換

- 読書ボランティアの県全体のネットワークづくりは非常に難しいと認識している。県北の方では、近いうちに緩やかなネットワークが立ち上がるのではないかと考えている。そういうネットワークの立ち上げの動きのある地域を教えていただければ、投げかけをしていきたいと思うので、情報をいただければありがたい。

- 社会教育総合センターの機能移管については、本当は私たち委員も討議が必要だったのではないかと考えていた。これから先、図書館の運営がどうであるかというときに、いろいろと経過を教えてください。

- 来館者数が図書館の努力によって増えているということを行ったが、県立図書館が社会教育総合センターの機能を持つとなると、実はもっと目標達成も増やしていったら、目標値がまた変わってくるのではないかと考えている。

- 前回の協議会の際、県立図書館で社会教育総合センターの機能を担っているところはほかにはないと聞いたが、そうであれば大分県立図書館が全国で初めてその機能を持つことになるわけであり、どういうふうに日本で初の試みを進めていくのかということ、ぜひこれから先考えていただきたい。

(図書館) この県立図書が何をやるのかということは見られているので、相当意識して覚悟してやっていかなければいけない。社会教育総合センターの仕事の機能のいくつかを移転すれば済むだろうという状況ではない。

- 地元のチラシが県立図書館に置いてあるのを見るととても嬉しい。県立図書館から離れている者がここに来たときに、自分たちの市町村の図書館と県立図書館が繋がっている、また、市町村のこともちゃんとこの県立図書館にあるということがあって、もっと県民が来やすい図書館になると思うので、ぜひまた力を入れていただきたい。また、県

立図書館が取り組んでいる大分県の作家の年表づくりなどの取組が、市町村の図書館にも広がってくると思う。

(図書館) 今は依頼されたものを置いている形だが、多くの利用者があるところなので、もう少し意識して役に立てるような形で、現在のパンフレット、チラシの置き方のままでよいのかは考えないといけないと思っている。

2階の郷土情報室には、県内全市町村の広報誌等すべて郷土資料として収集している。また、新時代おおいたの中にも、大分県のゆかりの図書ということで一つコラムをいただいているので、そういうところもぜひご覧いただきたい。

- この図書館協議会の日程を組むときに、県立図書館の事業を具体的に見ることができるときとセットしてもらえると、図書館の最終的な評価を行うときにもっと具体的に図書館の運営状況も見ることができるようになるので、そういう工夫してもらえるとよい。

(図書館) 県立図書館で行っている事業で、なるべく多くの方に来て見ていただきたいというようなものでも、なかなかうまく届けられずに少数の方の前での提供となっていることがある。委員の皆さんのご都合もあるかと思うが、協議会の日程については、そうした事業と組み合わせさせていただき工夫もさせていただきたいと思う。

- 社会教育総合センターの機能が付与された図書館としての事業展開の仕方として、関係法令を超えているような連携事業、新しい事業の展開の仕方を模索しながらやっていくということになるのか、そうすると組織のあり方、人事的なものも含めて、これまでどのように変わったのか、これまではこうだったけれどもこういうふうになって、こんな連携事業を展開していく等、方針を示されないと、何をどう評価していけばいいのかよくわからない。

(図書館) 評価の前提として、図書館の業務体系がすっきり理解できないというようなことがあると思うが、それは評価の問題というよりは図書館の業務が今年度どうなったのかという問題で、正直なところ、ちょっと混乱状態にある。今、問題点を整理しているところで、できるだけ早い段階で、この協議会で説明できるような段階に持っていきたいと思っており、作業中ということでご理解いただきたい。

- ビブリオバトルについて聞きたい。学校図書館では、読書感想文コンクールを行っているが、感想文を業者に委託して書いてもらうという子どもが増えたというニュースが先日あり、大分県もそんな感じになってくるのではないかと予想される。感想文自体をやめることはないが、人前で話したり、メディアにあげたりする方向に世の中は少しずつ方向転換しているような感じがしており、ビブリオバトルには個人的には期待していた部分がある。第1回が行われたのではないと思うが、今後はどうか。

(図書館) 去年は、中学生をモデル実施、高校生は2回目を実施した。今年は11月5日に、中学校、高校という形で実施予定である。ビブリオバトルは、社会教育課が数年間行うという事業だが、子どもたち、指導いただく先生方には非常に好評である。一方、それぞれの学校まで指導法も含めて伝達できていないというような課題もあると聞いている。ただ、これだけ好評であれば、継続して実施していく必要があるのではないかと判断しているが、学校図書館協議会や県立図書館など、どこが中心となって実施していくのかということは、今の取組の評価を終えてということになるのではないかと。

- 大学の図書館でも、昨年までの3年間、ビブリオバトルを実施した。学生は初体験のようで、どうやったらいいのかわかりにくかったようではある。けっこうバラエティに富んだ本が選ばれていた。中学校、高校で実施されているのであれば、そうした子ども

たちが成長して大学でも実施してくれるようになれば、確かに活字離れしているとは言
うけれど、ちょっと心強い気がした。大学ではすぐに続ける予定はないが、もっと若年
層で裾野を広げてもらえたらと思う。

9 会議の資料名一覧

(1) 平成29年度第1回大分県立図書館協議会資料

(議事)

- ア 平成28年度第3回協議会 意見等、当日説明・対応方針について
 - ・平成28年度第3回大分県立図書館協議会 意見等、当日説明・対応方針
- イ 平成28年度事業実績について
 - ・平成28年度事業実績
- ウ 大分県立図書館重点目標の達成状況について
 - ・大分県立図書館重点目標の達成状況
 - ・大分県立図書館重点目標の達成状況（平成29年度版）

10 問い合わせ先

担当課 大分県立図書館総務企画課
電話番号 097-546-9977